

# 橘町の見どころ

## まちの歴史シリーズ ④

橘町HP <https://tachibana-net.jp> [歴史・史跡](#) クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会  
ふるさと部会  
発行日：令和4年10月1日  
責任者：前田 信俊  
事務局：橘公民館 22-3884

オイがこまか頃は、まだおつぼ山神籠石は、知られとらんやった。ミカン山の造成中に、見つかったとばい。それから60年余り。やっと遺跡全体の整備が進み、郷土の誇りと思える姿になってきた。見どころとして気軽に足を運んでもらいたいですね。



今回の案内人  
北檜崎区長  
山崎定嘉さん

### 神籠石の位置



### 大陸からの防衛最前線

## おつぼ山神籠石

(北檜崎・小野原)

#### ●どこにあ〜と？

おつぼ山神籠石はほとんどが小野原★①にあって、北檜崎とは境界付近になつ〜です。

#### ●誰が見つけたと？

ミカン山造成工事中、「何か変なもんが出てきた」と、南檜崎の江口先生（お医者さん）に連絡があり、現地を見られて「これは神籠石かも知れない」と思われ、それから本格的調査に動いていったと聞いたですね。

#### ●調査はどがんしたと？

昭和38年に、九大の鏡山先生たちが調査に来られ、朝鮮式の山城★②と分かったですね。

#### ●どんな調査をしたと？

列石★③が出てきたので、それをずっと掘って行って、水門跡や東門跡などが出てきたと。詳しいことは、**11月27日(日)の歴史散歩**でも説明があるので参加してくんしゃいね。

#### ●神籠石って有名かと？

神籠石が山城なのか、神域であるのか★④の学史上の大論争に、終止符を打った遺跡として、学界では大変、有名らしいですね。



永遠の5歳、たっばくん。今回も僕が解説するね

#### ★印番号の解説

#### ★①場所

498号沿いにあるよ。  
右写真は、「炭鉱道」から古川製陶所を写したんだ。



#### ★②朝鮮式山城

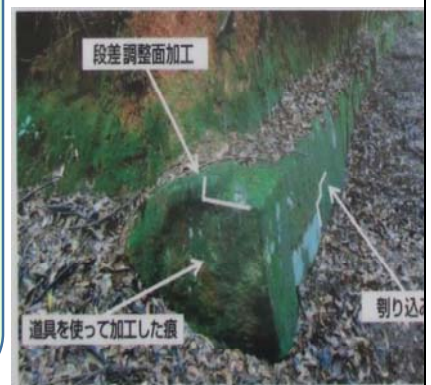
神籠石は、自然の地形を利用した軍事施設なんだ。朝鮮で発達し、7世紀後半頃に日本に伝わったよ。

#### ★③列石

おつぼ山の列石は丁寧に加工され、石材の上面を揃えたり、隣の石と組み合わせる窪みなどの加工をしているんだ。全国の列石の中で一番きれいと言われているよ。

#### クイズ

なぜ山城を造ったのかな？

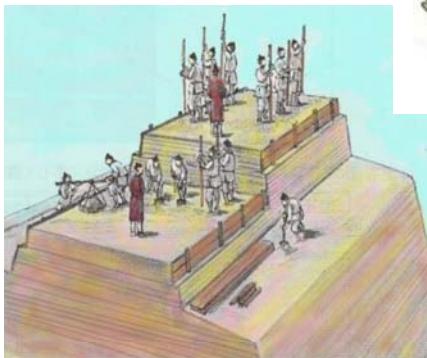


★④版築

★⑤山城と神域

神籠石の「第1土塁」という場所は、「版築」という技術を使用しているのがよくわかるよ。

- 版築は中国大陸の黄河流域で生まれた技術。
- 性質の異なる土を使い分け、一定の厚みで突き固める
- 右の図では、土を運ぶ人、棒で付き固める人、土が崩れないように板で支えたところなどが分るよ。



橘に造ったのは何故かな？

- 神籠石は、久留米市の高良山を取り巻く列石が、高良山神社の神域と考えられたから。
- 山に造られた軍事施設は山城と言うけれど、神籠石よりずっと後にできた中世の山城とは、構造などが異なるため、古代山城と呼び分けられているんだ。

クイズの答え

朝鮮や中国からの攻撃から日本を守るためとされているんだ。  
今から1300年以上も前の話なんだけど。

今日の う・ん・ち・く

★全国の古代山城

- 日本書紀などの国の歴史書に記録された城（朝鮮式山城と言うよ）は14城。
- 九州ではこれらの城とはやや異なる、「神籠石」の存在が知られており、現在16カ所。
- 下図●赤丸が朝鮮式山城（国史等に掲載された山城）、▲が神籠石だよ。
- 郷土の神籠石が日本防衛の最前線だったこと、それが古墳時代だったことは日本史学習のヒントだね
- 神籠石については、記録にないことから誰が、いつ、何のために造ったのか議論が続いているよ。

（このページは肥前国庁跡資料館歴史講座「古代山城」を参考にまとめました。）



今回ご紹介した遺跡は『古墳時代』のものでした

時代区分	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代		奈良時代		平安時代	
新・ふるさと歴史散歩記載項目	打製石器使用氷河期、大陸と陸続き。	1万年前に気候温暖、島国に。土器を作り煮炊きや貯蔵が可能に。	紀元前3C～3C。水稻栽培と弥生土器。環濠集落と小国家形成。大陸との交流も盛ん	3C半ば～700頃。古墳を造った時代。大和を中心とする統一国家（大和王権）の形成	任那日本府の滅亡と白村江の戦い 後期は飛鳥時代へ	律令体制。710～794 国史編纂と風土記。武雄が杵島の郡として記載される。	条里制が敷かれ、土地の開墾と荘園化が始まる。 国分寺・尼寺を建立、奈良麻呂の乱	藤原氏の権力増大、摂関政治を行う。荘園を貴族や寺社が支配、武士団を形成。	宮中警備・地方の治安に武士登用、支配の一旦を担う。平治の乱で清盛が朝廷の実権
主な市内遺跡 赤書は橘町	草場・おつぼ山第1水門・南檜崎遺跡。若木町小路遺跡、中野の黒曜石、柏岳サヌカイト	市場・下貝原・釈迦寺遺跡等の遺物。市内200力所以上。阿舍利・檜原遺跡（山内）	小橋-みやこ遺跡の環濠。潮見川流域・釈迦寺等遺跡、市内100力所以上。東宮裾遺跡	町内遺跡の鏡、銅剣。玉江遺跡 武雄平野を取り囲む山の周辺で300基以上	玉島古墳・潮見古墳、おつぼ山神籠石、東福寺・矢ノ浦・大蛇古の前方後円墳	肥前風土記と歌垣山、井手橋・林副（墨書土器） 武雄温泉 広福寺仏像	ドウザマ墓地立石と官道 小野原遺跡（条里制跡） 向野須恵器窯跡（北方）郡衙施設	長嶋庄成立 橘町条里制庄の前遺跡 おつぼ山経塚 武雄神社、黒尾神社、各地の経塚	長島庄は1170代に蓮華王院領 佐賀県最古の文書（実検状） 歡喜寺薬師如来像と後藤氏